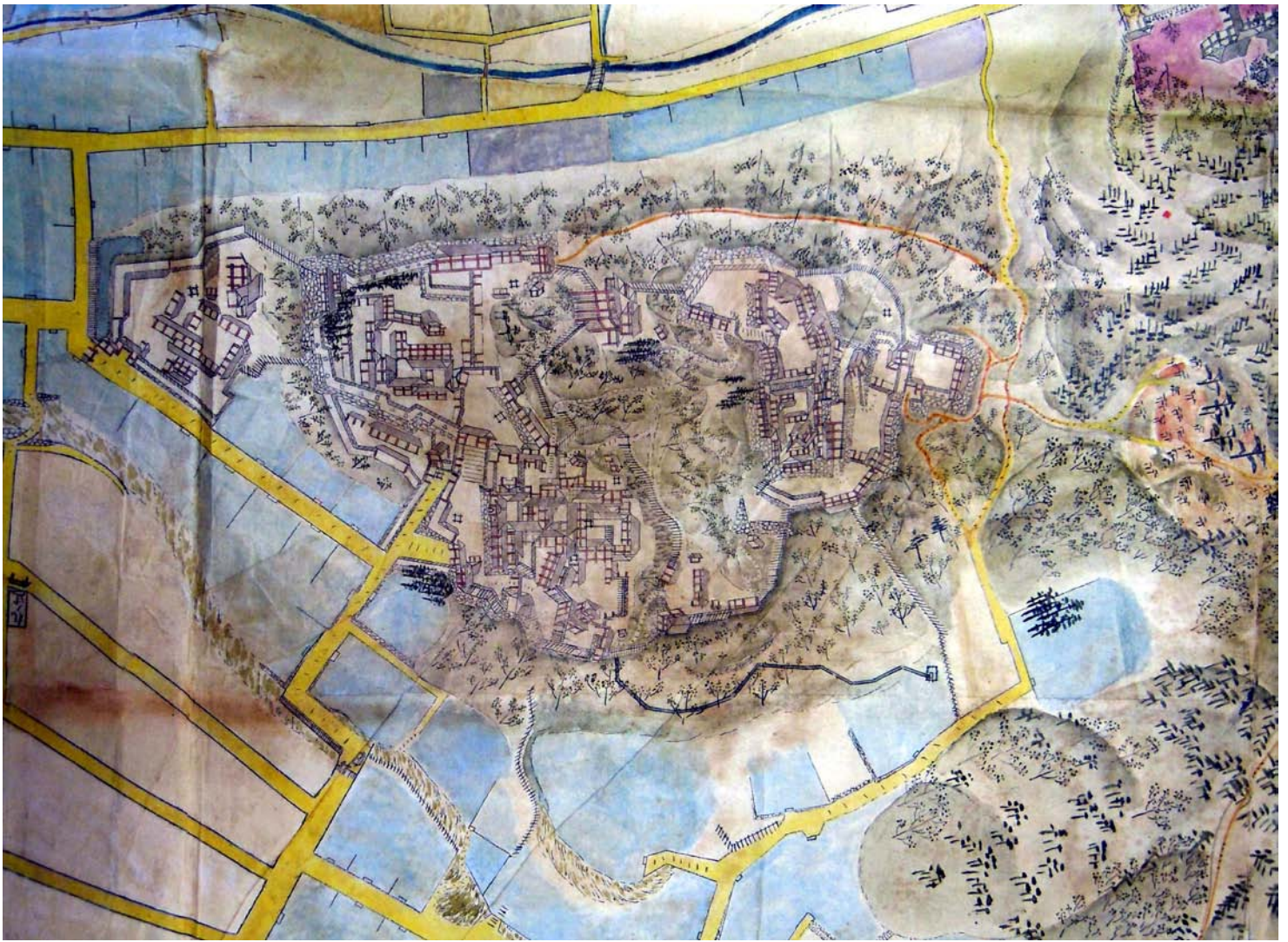




(第10図 全体図)





(第10図 城郭部分)

## (11) 飛州高山之図 (第10図)

年代 元禄5年9月～同6年4月 (推定)

寸法 188.0×277.5

所蔵 石川県立図書館 (森田文庫)

複製品 高山市教育委員会蔵

この図は加賀藩士の森田小左衛門(450石)が高山城在番中に描いたものと考えられ、高山城下町のみならず、宮川の西方水田地帯に至るまでの歴史地理情報が豊富である。

石川県立図書館(註8)には「森田文庫」として一括保存され、ほかにも高山城全体図、本丸屋形、二之丸屋形、二之丸庭樹院屋形の図が存在する。

加賀の前田家が高山城を管理していた元禄5～8年の間、「高山在番記」として相当量の記録が存在する。金沢市立近世資料館には「加越能文庫」表2)が、石川県立図書館には高山城図や城下町絵図などが「森田文庫」として残り、金森氏六代の時の高山城や、城下町の家臣団、町人人口、町名などの様子が読み取れる。加賀前田家が、高山城について、かなり力を入れて記録をしていることについては、注目すべきことで、高山城の建築形態、縄張り、家臣団構成、町人統制の有様などに関心があったと思われる。これらの資料は城下町高山の研究に役立つ好資料である。

『飛州高山在番雑記』の後書には森田良見が、「在番雑記 並 絵図数張等吾六世祖西岸翁元禄五年九月初度在番之時赴彼地翌六年四月交代之時マデ高山在番中筆記スル處ナリ」とあり、森田の記する「絵図数張等」がこの図と思われる。

図中央の覚書には「御城 並 東ハ錦山 南ハ山王山 西ハ町端国分寺 北ハ鮎崎山ヲ限三分ヲ以十間之計其外ハ三分ヲ以二十間之計。薄菴黄色ハ下屋敷 並 金森左京殿屋敷。

浅黄色ハ侍屋敷惣家数百十三軒。単色ハ扶持人屋敷惣家数三百五十四軒。柿色ハ足輕小者屋敷惣家数二百二十五軒。玉子色ハ町屋敷惣家数九百二十一軒。薄紫色ハ寺社屋敷十六ヶ寺九社。地紙之色白キ分ハ空地 並 田畠。青色ハ水。薄墨ハ川原。黄色ハ道筋」とある。

この図は正確な測量によって作成されたもので、188×277 センチと非常に大きい。高山市教育委員会で、石川県立図書館の許可を受けて、同寸法の複製を作り保管している。

図の三方の街道沿いには一里杭の位置が図示され、一之町札之辻から一里四方の範囲で描かれており、高山盆地全体を見渡すことができる。特に高山城や寺社が立面で書かれ、樹木も種別に描き分けられており、当時の建物や山々の様子を知ることができる。

また高山周辺の村落の家数は「石浦村五十三軒、千島村十七軒、花里村十九軒、西之一色村八十八軒、春国村四軒、上岡本村三十一軒、下岡本村三十軒、七日町村十四軒、桐生村二十四軒、本母村十二軒、冬頭村二十九軒、上切村十九軒、中切村二十二軒、下切村三十六軒、松本村十六軒、三福寺村五十六軒、松之木村二十六軒、山口村四十軒、江名子村五十五軒、片野村二十九軒」とある。

(註8) 石川県立図書館 〒920—0964 石川県金沢市本多町3丁目2—15

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。